

講義のテーマとねらい

政策についての政治学的考察の実践と社会科学的視点の習得

- ① 如何なる環境のなかで、如何なるプロセスを経て、政策は形成・実施・評価されるのか?
- ② 政策に関わるプロセスについて研究することは、如何なるアクティビティなのか?

授業の進め方(受講者数等によって変更される可能性があります)

- 報告者・討論者の決定(第2回授業)**..... 各回それぞれ3名程度(受講者数によっては変更されます)の報告者と討論者を割り当てます
※ 受講者数によっては、報告はグループ(各グループ2-3名)による報告となります
※ 各回の報告者・討論者の全員に教科書の同じ箇所が割り当てられます
- 報告者によるハンドアウトの作成・提出**..... 各報告者は**報告日前日 18時まで**にハンドアウトの電子ファイル(MSWord ファイルもしくは PDF ファイル)を、電子メールに添付するかたちで、講義担当者に送付してください
※ 締切や提出方法を守れない場合は減点対象となります
※ ハンドアウトには、教科書の担当箇所の要約に加えて、**何らかのプラスアルファを必ず含めてください**
- 報告者による報告(各約5-10分)**..... 報告者全員が各自作成したハンドアウトを基にして(特にプラスアルファの箇所について)プレゼンテーションを行います
- 討論者によるコメント(各約5分)**..... 討論者全員が全ての報告に対して(特にプラスアルファの箇所について)コメントを行います
- 出席者による質問・コメント等(約35分)**..... 報告者による報告と討論者によるコメントに原則として基づいて、全ての出席者は質問やコメント等を行います
※ 報告・討論を担当していない授業でも、各回の教科書の該当箇所に目を通してきてください
- 講義担当者によるコメント等(約5分)**..... 講義担当者が適宜補足を行い、コメントします

教科書

Birkland, T.A. 2016. *An Introduction to the Policy Process: Theories, Concepts, and Models of Public Policy Making*, **4th ed.**, Armonk: M.E. Sharpe.

⇒ **各自で早急に入手してください(最新版:第4版を使用します)**

- Ch.1: Introducing the Policy Process
- Ch.6: Agenda Setting, Power, and Interest Groups
- Ch.7: Policies and Policy Types
- Ch.8: Decision-Making and Policy Analysis
- Ch.9: Policy Design and Policy Tools
- Ch.10: Policy Implementation, Failure, and Learning
- Ch.11: Science and Theory in the Study of Public Policy

参考書(ハンドアウトや報告におけるプラスアルファの検討に活用してみてください)

- 縣公一郎・藤井浩司編 2007. 『コレク政策研究』, 成文堂。
縣公一郎・藤井浩司編 2016. 『ダイバーシティ時代の行政学—多様化社会における政策・制度研究』, 早稲田大学出版部。
秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉 2015. 『公共政策学の基礎(新版)』, 有斐閣。
足立幸男 1994. 『公共政策学入門—民主主義と政策』, 有斐閣。
岩崎正洋編 2012. 『政策過程の理論分析』, 三和書籍。
笠原英彦・桑原英明編 2013. 『公共政策の歴史と理論』, ミネルヴァ書房。
武智秀之 2017. 『政策学講義—決定の合理性(第2版)』, 中央大学出版部。
中道寿一編 2011. 『政策研究—学びのガイダンス』, 福村出版。
松田憲忠・竹田憲史編 2012. 『社会科学のための計量分析入門—データから政策を考える』, ミネルヴァ書房。
宮川公男 2002. 『政策科学入門』(第2版), 東洋経済新報社。

成績評価(下記4つの**全て**を行うことが、単位修得のための最低必要条件です)

- 期末試験**(詳細は後日説明します)..... 本講義で提供された知識の習得, 社会科学的思考の実践, 社会問題やそれに対する政策的対応等についての日常的な観察といった多様な側面から評価を行います
- クラス内での報告とハンドアウト**..... 教科書の担当箇所についてのハンドアウトと, クラス内での報告について評価を行います
- クラス内での討論**..... クラス内で行われた報告に対する討論者としてのコメントについて評価を行います
- クラス内でのディスカッションへの参加**..... クラス内でのディスカッションに対して報告者・討論者以外の立場から果たした貢献度について評価を行います
※ 全ての授業で質問やコメント等を行うことを基本姿勢としてください

※ 受講者数によっては、受講生のあいだで報告や討論が割り当てられる回数異なるかもしれませんが、その場合は回数の多い学生に対しては加点します

ご質問・ご相談等

月曜日昼休み(要予約); By appointment(電子メールでの連絡の場合は、件名又は本文に、氏名・学籍番号・受講講義名を必ず明記してください)

日程表(各章の「Case Study」と「Questions for Discussion, Reflection, and Research」については、アサインメントとしては読む必要はありませんが、プラスアルファを検討する際に活用してみてください)

授業日	教科書	報告者	討論者
04/09	ガイダンス①: 授業概要紹介/講義(「政策研究の科学性」)		
04/16	ガイダンス②: 報告者・討論者割当て/講義(「政策研究と政策過程研究」) ※教科書の第1章(Introducing the Policy Process)に目を通しておいください		
04/23	Ch.6 (pp.199-222)		
04/30	振替休日		
05/07	Ch.6 (pp.222-233)		
05/14	Ch.7 (pp.241-256)		
05/21	Ch.7 (pp.257-268)		
05/28	Ch.8 (pp.273-285)		
06/04	Ch.8 (pp.285-294)		
06/11	Ch.9 (pp.299-317)		
06/18	Ch.9 (pp.317-326)		
06/25	Ch.10 (pp.331-342)		
07/02	Ch.10 (pp.342-354)		
07/09	Ch.11 (pp.361-371)		
07/16	Ch.11 (pp.371-384)		
07/23	期末試験➡休講?(その場合は別途日時を設定)		